まちの話題や人物の紹介

TOPICS トピックス

思いを英語に込めて

第19回市中学生英語スピーチ大会



▲大会を終え笑顔の皆さん

8月20日、ふれあい文化センターで英語スピーチ大会を開催し、市内全6中学校から21人の生徒が参加しました。

発音、流ちょうさ、表現力、内容などを審査基準として、上位8人が表彰されました。優勝した新居紘希さん（春日野中学校3年）は「3回目の出場で優勝でき、うれしいです。地区大会も優勝を目指して頑張ります」と抱負を語りました。

30年間、毎朝欠かさずラジオ体操

白水大池公園ラジオ体操会が表彰



▲表彰された同会の皆さん

8月20日、ラジオ体操の普及推進に寄与したとして、同会が㈱かんぽ生命など3者からラジオ体操優良団体として表彰されました。

同会は30年前に活動を開始。毎朝6時20分から同公園で体操をしています。代表の宮野さん夫妻は「朝からみんなで体を動かすことで、元気に一日をスタートできます。気軽に参加してください」と笑顔で語りました。

被災地支援に謝意

熊本県宇土市長が井上市長を訪問



▲握手を交わす光井市長（右）と井上市長

8月27日、令和8年熊本地震で被害を受けた同市の光井正吾市長が、県市長会の会長を務める井上市長を訪問しました。

光井市長は「福岡県や全国からの支援に感謝する。復興は次のステージへと進んでいる」と述べ、現状を報告。井上市長は「報道を見て心を痛めている。困ったときは遠慮なく言ってほしい」と継続的な被災地支援を約束しました。

（一社）筑紫地区建設コンサルタンツ協会

昇町保育所におもちゃを寄贈



▲寄贈品の前で記念撮影

8月26日、筑紫地区で測量・調査・設計業を営む会員からなる同協会から、地域貢献の一環として、同保育所にバランスブロックやアクティブプレースポットなどが寄贈されました。

子どもたちは、自分たちが考えた方法で同協会をおもてなし。案内、お茶出し、手作りのブーケのプレゼントなど、各園児が自分の役割を果たし、感謝を込めてお礼の言葉を伝えました。

全国初の市民参画による取り組み

文化財保存活用地域計画の提案書を提出



▲左から武末名誉館長、市長、寺﨑会長

9月29日、市民団体である「武末名誉館長と文化財保存活用地域計画を考える会」が同計画の提案書を井上市長に提出しました。

この提案書は、令和5年度から3年をかけて同会員が文化財を調査してまとめたもの。市民参画で文化財計画の提案を行うことは全国初です。

提案書は、市が令和10年度の認定を目指して作成に着手する同計画に生かされます。

★表紙関連

3つの競技を親子で楽しむ

フットボールフェスタ



▲親子で一緒にサッカーを楽しむ

9月23日、白水大池公園の多目的広場で同フェスタを開催しました。

4歳から小学生までの親子約90人がサッカー、ラグビー、アメフトを体験。市内で活動する春日イーグルス、ふくようスポーツクラブ、ラグビーフットボール協会をはじめ、社会人アメフトチームやプロラグビーチームも参加し、3つの競技を通じて楽しく交流しました。

いつまでもお元気で

100歳の高齢者を市長が訪問

9月17日と25日、井上市長が今年度中に100歳を迎える坂口マサ子さん、森崎トクエさんをそれぞれ訪問し、内閣総理大臣、県知事、市長からの各祝い状などを手渡しました。

訪問時、坂口さんは「これまで生きてきた甲斐があった」と笑顔で語り、森崎さんはうれしそうな表情で喜んでいました。

坂口さんは、近所の公園の掃除や自宅の洗濯物干し、庭の手入れや花づくりなどを自身の役割として過ごし、100歳を迎えた今も毎日3食を家族と一緒に囲み、充実した日々を送っています。

森崎さんは、訪問した日に100歳を迎えました。同席した家族は、新聞を読むことが日課であること、寝込むことなく毎日自分で起きて着替えることなど、森崎さんが日々を元気に過ごしている様子を語りました。

今年度中に100歳を迎える市民は31人（8月末時点）。ますますのご長寿をお祈りします。



▲祝い状を一緒に持つ坂口さん（右）と市長



▲市長から記念品を受け取る森崎さん（左）

電話番号 Fファクス番号 メールアドレス ID市ウェブサイトページID

弥生時代の歴史や文化を知って楽しむ

第14回弥生の里かすが「奴国の丘フェスタ」

9月26日、奴国の丘歴史資料館と奴国の丘歴史公園で同フェスタが開催されました。

当日はあいにくの雨天でしたが、毎年恒例の勾玉作りや土鈴作り、鋳物作り、火起こしなどの体験イベントは、子どもを中心に多くの人でにぎわいました。

また、同資料館内のバックヤードツアーでは、小学生のジュニアガイドも活躍。物怖じせず、テキパキとした解説に、ツアー参加者からは感嘆の拍手が送られました。

午後からは、予定していた屋外ステージを同資料館内に会場を移し、福岡女学院大学短期大学部の学生2人による司会の下、「風の丘コンサート」を開催。音楽の玉手箱登録音楽家「てみてる」の2人によるハープとギターのやさしい調べと、同フェスタテーマ曲「風紋」の作曲者である和田名保子さんによる情緒あふれるオカリナ演奏が、歴史ロマンが漂うイベントに彩りを添えました。



▲ジュニアガイドによる解説



▲「てみてる」の演奏

地域福祉活動の推進に向けて

赤い羽根共同募金街頭啓発運動



▲募金への協力を呼び掛ける髙田副市長

10月1日、全国一斉に同運動が始まりました。

市では西鉄春日原駅、JR春日駅、JR博多南駅で市社会福祉協議会職員や髙田副市長などが赤い羽根などの啓発物品を配布。協力を呼び掛けました。

共同募金は、高齢者や障がい者、子ども、生活困窮者の支援、ボランティア団体の育成のほか、被災地支援や災害時のボランティアセンターの設置など、さまざまな地域福祉活動に役立てられます。

第43回全国少年少女レスリング選手権大会

全国大会での準優勝を市長に報告



▲森山さん(右)と井上市長

9月30日、森山大輔さん(春日小学校4年)が井上市長を訪問し、7月に東京で開催された同大会において、男子の部4年生(50kg級)で準優勝したことを報告しました。

元々ラグビーをしていて、タックルが上手になるよう始めたレスリング。森山さんは「今も続けているラグビーも含め、来年も良い成績を収めたい」と今後の抱負を語りました。